

K-1: 11月8日(土) (13:50 ~ 14:50)

<b>タイトル</b>	医療機関における超上流からのプロジェクトマネジメント
<b>講演者</b>	成清 哲也(なりきよ てつや)氏
<b>講師紹介</b> 	<p>東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療管理政策学専攻修士課程修了(修士)。東京医科大学に入職、コンピュータシステムに関する業務に従事する。日本医療情報学会評議員(幹事)、上級医療情報技師能力検定試験委員会委員長、日本医療情報学会関東支部副支部長、関東医療情報技師会世話人、関西医療情報技師会世話人、PMI日本支部PMBOK®プログラムセミナー委員会メンバー、医療PM研究会メンバー、PMP、上級医療情報技師</p> <p>主な著書に、「医療プロジェクトマネジメント ～医療を変える国際標準マネジメント手法～」(篠原出版新社・共著)、『新版医療情報第2版 医療情報システム編』(篠原出版新社・共著)、『医療情報サブノート第3版』(篠原出版新社・共著)</p>
<b>概要</b>	<p>日本は、国民皆保険制度、フリーアクセス、自由開業制という世界でもユニークな医療提供体制を作り、世界最高レベルの平均寿命を達成している。そして、これを支える医療機関は医師をはじめとして多くの専門家で構成されており、24時間365日休むことなく運営されている。そのため、医療のプロが求める情報システムに対する要件レベルは他産業と比較しても高いものと推察される。</p> <p>一方で診療報酬制度のもとで先進国と比較して比較的安価に医療を提供されており、結果として公立病院の約半分は赤字経営を余儀なくされている。そして、医療情報システムの構築費も医療収入の1%~3%程度であり十分とは言えない状況である。さらに、診療報酬の改正は2年に1回あり、その通知から実施まで1か月も無い状況でのシステム更新が求められている。</p> <p>そのため各病院の医療情報システムの担当者は、Q,C,Dの最適解を見つけ出すことが困難であり3重苦にあえいでいる。さらには、専任の医療情報システム担当者を置いていない病院も多くみられる。</p> <p>今回の講演では、入職して6年目に経験した大規模システムの導入の失敗の経験から、これまで段階的に職務拡充、職務充実へと紆余曲折しながら歩んだ一ユーザー企業の事例を振り返り、プロジェクトマネジメント、PMOの専門家の皆様とディスカッションできる話題を提供したい。</p>